

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	宝城坊本堂保存修理支援事業			事業番号	12-101
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	教育部	谷亀博久	教育総務課歴史文化担当	立花 実	

計 画 (Plan)

総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1	誰もが明るく暮らせるまち			
		基本政策	3	人がつながり未来を拓く学び合うまちづくり			
		施策展開の方向	2	いつまでも学び生きがいを持つまちをつくる			
		施策	12	歴史と文化遺産の継承			
予算事業名	宝城坊本堂保存修理支援事業費	文化財保護啓発活動費					
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→			法令上の位置づけ	できる規定がある		
事業開始年度	開始年度	平成22年度	～	終了年度	平成28年度		
関連法令等	文化財保護法、文化庁文化財補助金交付規則、神奈川県文化財保護条例、伊勢原市文化財保護条例、伊勢原市補助金等の交付規則、伊勢原市文化財保存修理・管理等補助金交付要綱						
国・県の計画等	かながわブランドデザイン実施計画 にぎわい拠点づくり(大山地域)	計画期間	-				
関連個別計画	伊勢原市教育振興基本計画、伊勢原市歴史文化基本構想	計画期間	平成22年度～平成29年度				
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	文化庁は、平成22年に宝城坊を事業者とする保存修理事業の申請を認め、国庫補助事業として宝城坊本堂の保存修理工事の実施を決定した。事業の目的は、重要文化財である本堂を健全な状態に復旧して、文化財としての価値を維持し、将来に継承していくことである。伊勢原市としては、その事業の意義を認識し、地元自治体として事業の支援を行う。						
目的 (何をどうしたいのか)	宝城坊本堂の保存修理事業は、国庫補助事業として平成22年度から7年間の予定で開始され、平成28年度はその最終年にあたる。市としては、江戸時代以来の大修理となる歴史的事業を支援するため、伊勢原市文化財保護条例に則り、補助を行う。また、その文化的意義を認識し、多くの市民への情報提供に努める。						
主な対象 (誰・何を対象に)	補助対象事業者は、宗教法人 宝城坊 見学会等の対象者は、市民等						
事業内容 (手段、手法など)	・宝城坊本堂の保存修理事業(平成22年度から平成28年度)に対し、国・県と連携を取りながら、財政支援を行います。 ・また、地域にある貴重な文化財の紹介とともに、保護の必要性への理解を深めていくため、修理現場の公開や保存修理事業の内容等に関する講演会等を開催します。						
事業行程	項目	年度					
		28年度	29年度				
	工事内容	塗装・仮設解体工事等	-				
	見学会の実施	2回実施	-				
講演会の開催	1回実施	-					
目 標	【指標名】	【現状】	年度				
			28年度	29年度			
	公開事業の参加者数	422人	500人	-			



事業実施(Do)へ

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	平成28年度は、7年計画の最終年に当たり、工事は11月までには完了となる予定である。計画どおりの事業推進のため、市としても支援を継続していく。修理現場見学会、また工事の完了に際して総括的な講演会を実施し、歴史的事業の意義と文化財保護への理解の促進を図る。		
実施方法 〔選択・記入〕	○ すべて直接実施 ● 左記以外		
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者
	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金		補助先 宗教法人宝城坊
	<input checked="" type="checkbox"/> その他		具体的内容 見学会、講演会は直営による実施
実施結果	項目	年度	
		28年度	29年度
	工事内容	塗装・仮設解体工事等	
	見学会の実施	1回実施	
	講演会の開催	2回実施	
実施した取組の内容	保存修理事業は、国・県・市の補助金を活用して計画どおり実施された。市としても、計画どおりの補助を実施した。関連する事業として、市民向けの修理現場見学会を10月に、関連内容の講演会を12月と1月の2回実施した。また、市のホームページ等を通じて情報発信に努めた。		
目標の達成状況	【指標名】	【現状】	年度
			28年度
	公開事業の参加者数	422人	391人

コスト	年度	28年度 実績				29年度 実績			
	事業費合計 (a)		1,045		千円			千円	
	内訳	国県支出金 ①	0		千円			千円	
		地方債 ②	0		千円			千円	
		その他特財 ③	0		千円			千円	
		一般財源 (a)-①-②-③	1,045		千円	0		千円	
	国県支出金の内容								
	その他特財の内容	受益者負担	○ 有 ● 無		前回の改定時期				
		その他	保存修理事業(平成28年度事業費124,900,000円)に対しては、国が75%、県・市・所有者が8.33%を負担。見学会の参加者は傷害保険としてひとり50円を負担。						
	人件費	正規職員	0.1	人	865	千円		人	千円
		その他の職員	0	人	0	千円		人	千円
		人件費合計 (b)	0.1	人	865	千円		人	千円
	トータルコスト (a)+(b)				1,910	千円			千円
	単位当たりコスト	対象数	定義	公開事業に参加した市民等		単位			単位
			対象数	391		人			
総事業費／対象数		4,885		円				円	

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	A	左記判断理由	保存修理事業は、文化庁の指導を受けながら、計画どおりに進行した。所有者、関係者の協力を得ながら、市の直営事業として実施している修理現場の見学会は、現場の安全上の配慮から1回となったが、修理内容を解説する講演会は2回実施することができた。
実施水準 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	A	他都市の事業内容等	重要文化財建造物の保存修理事業としては、現在県内最大規模である。事業には、国・県の補助が活用されており、市も補助金を交付することにより、事業を支援することができた。見学会、講演会についても、リピーターを含む多くの参加が見られた。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	市域で最も指定文化財が集中している宝城坊のなかでも、本堂はその中心的な存在である。認定を受けた日本遺産の構成文化財でもある本堂を健全な状態に復旧し、将来に継承していくことは、文化財の保護のみならず、地域活性化の面からも意義が高い。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	保存修理事業は、文化庁の指導のもと、文化財の保存と継承の理念に基づき実施された。見学会の開催に際しては、所有者、工事関係者、さらに養成したボランティアに協力いただいた。


 取組の改善 (Action)へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	本事業は平成28年度をもって終了する。
次年度取組方針	保存修理事業は平成28年度で終了するが、日本遺産協議会の取組や当課が実施する文化財公開・活用事業等において、完成した本堂をはじめ、日向地区の文化財を積極的に活用することで、文化財保護への理解を深めつつ、地域の活性化につなげていく必要がある。			
所管部長による総評	宝城坊本堂保存修理事業は終了しました。今後は竣工した本堂を始め、日向地区の歴史や文化遺産の保護と活用を図っていきます。			